

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2016年2月）議事録

日時：2016年2月19日（金）午後5時30分～7時00分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登、永富良一副理事長、

碓井外幸常務理事、大野 誠、小野寺昇、
甲斐裕子、勝村俊仁、後藤勝正、下光輝一、
須田和裕、武政 徹、竹森 重、田中喜代次、
田畑 泉、成田和穂、西牟田守、能勢 博、
宮地元彦各理事、井上 茂、清田 寛、
小林康孝、定本朋子各監事、
立身政信（第71回大会長・岩手）、
山本直史（第72回大会事務局・愛媛）

欠席者：西平賀昭副理事長、川原 貴、栗原 敏、

坂本静男、内藤久士、浜岡隆文、
山内秀樹各理事、
田島文博（第70回大会長・和歌山）

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

2. プロジェクト研究について

（須田プロジェクト研究委員長）

配布資料に基づき、これまでのプロジェクト研究への公募状況について報告がなされ、最終的に2件の応募があったとの報告がなされた。応募があった2件を委員会において審査した結果、下記の研究グループを採択したいとの提案がなされ、理事会として承認した。

採択プロジェクト研究：

「女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究」

研究代表者：安田 義（神戸市立医療センター中央市民病院／整形外科部長）

3. 日本筋学会との連携について（後藤理事）

配布資料に基づき、日本筋学会の武田理事長より本学会と連携できないかという提案を受けた旨、報告された。審議の結果、設立したばかりの学会で、どのような活動をする学会なのかが掴みきれていないため、今後の動向を見極めた上で再度検討することになった。

4. JPFISMの広告掲載について

（田中編集委員長、後藤編集副委員長）

本部事務局宛に広告代理店より、JPFISM誌に広告掲載が可能か、可能な場合、日本語と英語両方の掲載が可能か否かの問い合わせがあったことが報告された。編集委員会としては広告掲載は広告料が学会に入るメリットがあるので受けたいとの提案がなされた。審議の結果、広告掲載に関するポリシーを作成した方がいいのではないかと意見が出され、ポリシー作成

は総務委員会が担当することになった。尚、JPFISM誌には日本語での掲載は受け付けず、英語での広告に限るという事で了承された。

5. 福井大会について（武政総務委員長）

総務委員会より第73回福井大会の大会長候補者として、「戎利光先生（福井大学・教授）」を社員総会に推薦したいとの提案がなされ、承認された。また、同事務局長候補者として「山田孝禎先生（福井大学・講師）」が推薦され、了承された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会報告（武政委員長）

・会員名簿について

会員名簿記入申請締切日が過ぎた2月19日現在、正会員・名誉会員4,152名の内、未回答2,301名、回答済み1,851名との報告があった。今回は名簿を作成することで了承を得ているため、作成するが、今後名簿を継続・作成するか否かについて名簿廃止も視野に入れて検討を重ねていく旨、報告された。

・NHKからの協力依頼について

昨年末にNHKから協力依頼があった、番組への協力依頼（会員へのメール配信）について、放送された番組を確認した所、学会員としての発言は特定されておらず、協力した一覧に学会名が出ているだけで、NHKと交わした約束については守られていたとの報告がなされた。

2) 編集委員会報告（田中委員長、後藤副委員長）

・投稿規定の改定について

JPFISM Vol. 5-1掲載予定のReview, Referencesにおいて、著者数374 文字数4,000を超える文献があったと報告があり、J-STAGE上の引用文献の公開画面の規定は、最大4,000文字となっているため、JPFISM投稿規定の「References」について、著者数の上限を20名に設定し、それ以上はet al.と改訂した旨、報告があった。

・二次出版について

二次出版とは、「他誌に掲載された論文や総説を、別の雑誌に同じ言語もしくは別の言語で掲載する」ことである、との説明がなされ、他誌で発表された論文や総説を「体力科学あるいはJPFISM」に掲載する場合、逆に「体力科学あるいはJPFISM」に発表された論文や総説を他誌に掲載する場合の、二次出版対応方法が説明された。具体的な対応は下記の通りとするとの説明がなされた。

(A) 他誌に発表された論文や総説を、体力科学あるいはJPFISMに二次出版として掲載する際は、以下の全てが満たされなければならない。

1) 推薦者あるいは著者からの依頼または日本体力医学会からの要請を受け、編集委員長が二次出版の必要ありと認めていること。

なお、推薦者とは、編集委員長あるいは編集委員とする。

- 2) 他誌から二次出版についての合意が得られていること。

この場合、推薦者あるいは著者が他誌編集委員会あるいは出版社より合意を得るものとする。

- 3) 二次出版であることをタイトルの一部に明示すること。

(B) 体力科学あるいはJPFISMに発表された論文や総説を、二次出版として他誌に掲載する際には、以下の全てが満たされなければならない。

- 1) 他誌編集委員長の依頼や日本体力医学会からの要請、あるいは著者からの依頼があり、二次出版の必要ありと認めていること。

- 2) 他誌から二次出版についての合意が得られていること。

この場合、推薦者あるいは著者が他誌編集委員会あるいは出版社より合意を得るものとする。

- 3) 本誌掲載号発刊後、1か月以上経過していること。

- 4) 二次出版であることをタイトルの一部に明示すること。

・投稿規定を大幅超過した投稿原稿について

論文あるいは総説の長さが投稿規定を大幅に超過した投稿原稿については、当面の間受付を認めない、こととする旨、報告があった。また、その際の基準は、投稿規定+一頁程度とするとの説明があった。

・重複（二重）掲載について

重複（二重）掲載とは、「既に印刷または電子的媒体で出版された論文と重複する内容の論文を掲載すること、あるいは掲載しようとしていること」との説明がなされ、重複（二重）掲載を疑う判断基準には、「国際医学雑誌編集者委員会の重複（二重）掲載に関する指針」を用いる旨、報告があった。また、重複（二重）掲載の疑義あるいは事実が確認された場合の対応について、査読前あるいは査読中、掲載後の2つに対してそれぞれの対応について説明された。具体的な対応は以下の通りとするとの説明がなされた。

- 1) 掲載が決まる前に重複（二重）掲載の疑義が編集委員あるいは査読者から指摘された場合：疑義について編集委員長、担当編集委員ならびに編集事務局にて調査し、重複（二重）掲載の疑いがあると判断された場合、編集委員長名で責任著者に質問状を送付し、回答を得る。

その回答を踏まえて、編集委員長と副委員長ならびに担当編集者にて協議し、査読前であれば受理するか否か、査読中であれば査読を続けるか否か、決定する。

- 2) 掲載後に重複（二重）掲載の疑義が読者などから指摘された場合：

疑義について編集委員長、担当編集委員ならびに編集事務局にて調査し、重複（二重）掲載の

疑いがあると判断された場合、編集委員長名で責任著者に質問状を送付し、回答を得る。

その回答を踏まえて、編集委員長と副委員長ならびに担当編集者にて対応を協議し、掲載を取り消すか否か決定する。

重複（二重）掲載の事実が確認された場合は、以下の1)～4)のいずれかあるいは複数の対応を執るものとする。

- 1) 事実が確定した時点より一年間の投稿禁止とする。
- 2) その事実を、HPおよび誌上にて公表する。
- 3) その事実を、他誌の編集者に連絡する。
- 4) すでに掲載された論文などについては、掲載を取り消す。

補足

- 1) 重複（二重）掲載の疑義が編集委員あるいは査読者から指摘される前に著者らが自発的に投稿を取り下げた場合は、本対応は適応しないものとする。

- 2) 体力科学あるいはJPFISMに掲載された論文が他誌に重複（二重）掲載されていることが判明した場合は、上記2)「掲載後に重複（二重）掲載の疑義が読者などから指摘された場合」と同様の取り扱いとし、罰則の取り扱いも同様とする。

- 3) 学術委員会報告

・スポーツ医学研修会実行委員会報告
(竹森学術委員長)

研修会終了後の参加者アンケートで、研究の相談に応じて欲しいという意見が複数あり、研修会のプログラムの中に、「研究計画・立案」等を盛り込むことを検討中である、との報告がなされた。

- 4) 評議員選考委員会報告（大野委員長）

学会誌に今年も評議員募集のチラシを同封し、広く評議員候補者を募集するとの報告があった。

- 5) 渉外委員会報告（永富委員長）

・参加助成制度について

ACSMのみ参加助成をしていたが、4月以降に参加する国際学会で採択された演題に対してトラベルグラントを与える方向で検討中であるとの報告がなされた。

・ECSS交流シンポジウムについて

ECSS交流シンポジウムについて宮地理事を座長とし、福典之会員が演者としてシンポジウムを開催予定であると報告があった。

・脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて

井上監事が委員として活動していた脳心血管病協議会について、小熊祐子渉外委員が担当を引き継ぐこと、現在は論文「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート」の英文化を進めている所である、と進捗状況が報告された。

- 6) 倫理委員会報告（成田委員長）

所属施設に倫理審査委員会がなく、倫理審査が受けられない会員の研究に関して、倫理審査が受け付けられるような体制の整備を進めていく旨、報告が

あった。

7) 将来構想検討委員会報告 (能勢委員長)

メールを用いて、将来構想検討委員会を開催し、「2020年東京オリンピック、パラリンピック」開催を機会に、本学会をどのように盛り上げていくかを検討した結果について、配布資料に基づき、次のような報告がなされた。

- ・学会理念の確認 (学会ホームページの充実)
- ・学会独自の運動指針の発刊 (競技・健康スポーツ、熱中症予防)
- ・指針に沿った「学会開催」「研究プロジェクト」「新しいエビデンスの普及・啓発活動」の推進
- ・機関誌 (JPFMS) の充実 (競技スポーツの論文の掲載など)
- ・他分野の複数学会との連携強化 (日本リハ医学会など)

などが、同委員会委員から寄せられた意見であるとの説明がなされた。これらの意見に対し、鈴木理事長より、1) 体力医学会の理念等は体力医学会ホームページに掲載されている、2) 学術刊行物については、学術刊行物小委員会を立ち上げ、来年の体力医学会大会開催日頃の発刊を目標に活動開始している、3) JPFMSについては、編集委員会を中心に、当面インパクトファクター1.0以上を目指して鋭意努力している、4) 他学会との連携については、2019年開催のFAOPS2019 Kobe: Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies 2019 Congress (アジア・オセアニア生理学会連合2019年大会)は日本生理学会と共催することが決定しており、学術刊行物の刊行目的は臨床学会との連携を視野に入れた事業である旨、追加された。

8) 広報委員会 (甲斐委員長)

学会の理念をどのように宣伝していくか、検討していくとの報告がなされた。

9) 利益相反委員会 (宮地委員長)

次回投稿規定が改定される時に、利益相反に関する事項を改定する予定である旨、報告された。

10) 学術刊行物小委員会 (永富委員長)

前回理事会から2回委員会を開催したことが報告され、刊行物の内容については次回5月理事会で提示するよう進めていると、進捗状況が報告された。また、本刊行物は医学教育カリキュラムの中で、運動生理学、運動療法、運動処方、スポーツ医学等を全く学んで来なかった臨床の医師および医療従事者の卒後教育の意味合いを込めた内容、刊行物であり、日本医師会の主だった先生に本刊行物に対する“推薦のこぼし”を書いてもらえば、良い宣伝になるのではないか、との提案があった。

2. 第71回 (岩手) 大会の進捗状況について

(立身第71回大会長)

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告がなされた。

会 期: 2016年9月23日(金) - 25日(日)

会 場: アイーナ, マリオス

テーマ: 東北の再生と復興をめざすスポーツ振興と体力医学

3. 第72回 (愛媛) 大会の進捗状況について

(山本第72回大会事務局)

大会の準備状況等について報告がなされた。

会 期: 2017年9月16日(土) - 18日(月)

会 場: 愛媛大学城北キャンパス, 松山大学文京キャンパス

**「第11回運動免疫学研究会」・「第33回筋肉の会」ジョイントミーティングならびに
「第1回身体運動制御の会」(旧筋電図の会)のご案内(第2報)**

「第11回運動免疫学研究会」・「第33回筋肉の会」ジョイントミーティング

日 時：平成28年9月23日(金)

第71回日本体力医学会大会1日目

17:30~19:30

会 場：大会D会場 アイーナ8階 会議室803

演 題：

1. 坂本 讓 先生(東北学院大学教養学部人間科学科)
「骨格筋修復における免疫制御受容体の役割」
2. 小笠原 理紀 先生
(名古屋工業大学生命・応用化学専攻)
「運動によるラパマイシン感受性mTOR活性化と骨格筋適応」

参加費：1,000円(事務連絡費, 会場費, AV機材借用費等)
研究会の当日, 受付にて申し受けます。

世話人：

「運動免疫学研究会」

奥津 光晴

(名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科)

〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1

TEL: 052-872-5837

e-mail: okutsu@nsc.nagoya-cu.ac.jp

「筋肉の会」

山内 秀樹

(東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室)

〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1

TEL: 03-3430-8686 自動オペレータシステム(2445)

FAX: 03-3480-4591

e-mail: yamauchi@jikei.ac.jp

「第1回身体運動制御の会」

日 時：平成28年9月23日(金)

第71回日本体力医学会大会1日目

17:30~19:30

会 場：大会E会場 アイーナ8階 会議室804A

演 題：

1. 笹田 周作 先生
(相模女子大学・短期大学部食物栄養学科)
「直流電気刺激を用いたスプリントパフォーマンス向上の試み」
2. 和坂 俊昭 先生(名古屋工業大学)
「身体運動制御における体性感覚領域の感覚運動統合」

参加費：1,000円(事務連絡費, 会場費, AV機材借用費等)
研究会の当日, 受付にて申し受けます。

世話人：

「身体運動制御の会」(旧筋電図の会)

中島 剛(杏林大学医学部統合生理学教室)

〒181-8611 東京都三鷹市新川6丁目20-2

TEL: 0422-47-5511 FAX: 0422-44-1816

e-mail: tsunakaj@ks.kyorin-u.ac.jp

合同懇親会：19:40~21:30

会 場：マリオス内「旬菜 浜野井」

http://www.malios.co.jp/restaurant_hamanoi/

参加費：飲み放題付き ¥5,000

公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成28年度研究助成および海外留学助成等の交付対象者募集

1. 研究助成募集要項

- (1) 助成対象課題－生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する次の諸分野の研究
 - (イ) 東洋医学，体力医学，社会医学，栄養学，薬学一般
 - (ロ) 基礎医学（上記以外）
 - (ハ) 臨床医学（上記以外）
- (2) 助成対象者－上記研究に意欲的に従事する日本在住の研究者で「3. 応募方法その他（2）推薦者」の推薦を受けた者
（注）研究推進特別奨励金は，医学部（大学院医学研究科）と薬学部（大学院薬学研究科）に限る
- (3) 助成の種類および金額
 - (イ) 研究助成金
 - ◇年齢不問，単独研究でも共同研究でもよい
 - ◇1件500万円，助成件数90件
 - (ロ) 研究奨励金
 - ◇若手研究者で昭和54年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和52年4月1日以降出生の者
 - ◇1件200万円，助成件数90件
 - (ハ) 研究推進特別奨励金
 - ◇医学部（大学院医学研究科）または薬学部（大学院薬学研究科）において平成26年4月以降に独立した研究室またはチームを立ち上げた，昭和46年4月1日以降出生の日本在住の教授（特任教授，准教授は除く）
 - ◇1件400万円，助成件数10件
- (4) 助成金の使途－研究に要する物品の購入その他研究推進に必要な費用とする

2. 海外留学助成（上原フェローシップ）募集要項

- (1) 助成対象者－研究助成と同じ課題の研究を行う研究者で次の条件を満たす者
 - (イ) 研究助成と同様に「3. 応募方法その他（2）推薦者」の推薦を受けた者
 - (ロ) 原則として平成29年1月1日～12月31日の間に新たに海外留学に出立する者
但し，事情によっては年内に出立する者および海外留学中の者（条件あり）も対象とする
 - (ハ) 1年間以上の海外留学を受け入れる大学等学術研究機関が決定している者
- (2) 助成の種類及び金額
 - (イ) リサーチフェローシップ
 - ◇研究奨励金と同じ年齢要件を満たす若手研究者
 - ◇博士号を有するか，またはそれと同等以上の研究業績を有する者
 - ◇1件400万円以内，助成件数約80件
 - (ロ) ポストドクトラルフェローシップ
 - ◇昭和58年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和56年4月1日以降出生の者
 - ◇助成期間中無収入の者
 - ◇博士号を有するか，または平成29年4月までに取得見込の者
 - ◇1件400万円以内，助成件数約40件

尚，海外留学助成（イ）（ロ）の選考段階での成績優秀者（若干名）に対し，2年間の助成を行う

3. 応募方法その他（研究助成および海外留学助成共通）

※研究推進特別奨励金のみ推薦者が異なる

- (1) 応募方法－当財団ホームページの助成金Web申請ページより応募する
- (2) 推薦者－
 - (イ) 大学関係
 - 総合大学：大学院研究科長（または学部長）^(注1)
 - 単科大学：学長
 - 財団理事会が承認した大学附置研究所等：代表責任者
 - 大学共通組織^(注2)（研究センター，研究施設等）：学長
 - （注1）薬学研究科，薬学部等同一の研究科，学部の場合はいずれか1件の推薦とする
 - （注2）原則研究センター長，施設長および病院長は推薦者となることできない
 - (ロ) 大学以外の研究機関：
 - 当財団理事会が承認した研究機関の代表責任者
 - ※研究推進特別奨励金：大学長（1大学1件の推薦とする）
- (3) 応募期間－平成28年6月10日～平成28年9月2日
- (4) 選考方法－当財団選考委員会において選考し，理事会で決定する
- (5) 採否の通知－平成28年12月下旬に採択者をホームページに掲載の上，採択通知を郵送する
- (6) 助成金の交付－平成29年1～3月の間に贈呈する

4. その他の助成金

(イ) 来日研究生助成金

- ◇わが国の大学院の博士課程（前期/後期）に入学するために来日し，あるいは既に大学院に在籍して，生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する研究を行う者で次の条件をいずれも満たす者（申請時点で大学院入試を受験していない者および合否が未定の者でも応募可とするが不合格となった場合は当財団へ申請取り下げの連絡が必要）
 - (1) 日本以外の国籍を有する者
 - (2) 他の奨学金，助成金を受けていない者
 - (3) 1年以上の研究を行う者
 - (4) 英語検定（TOEIC，TOEFL等）または日本語検定を受検した者

◇月額15万円（助成期間は2年以内）助成件数10件

◇応募期間－平成28年6月10日～平成28年9月2日

◇推薦者－大学長（1大学1件の推薦とする）

※応募方法，選考方法，採否の通知については上記「3. 応募方法その他」と同じ

(ロ) 国際シンポジウム開催助成金

◇わが国で開催される国際的な研究集会に対する助成

◇応募期間－平成28年6月10日～平成28年9月30日

※詳しくは当財団ホームページをご覧ください

5. 申請書提出先および連絡先

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号

公益財団法人 上原記念生命科学財団

TEL: 03-3985-3500, 8400 FAX: 03-3982-5613

E-mail: mail85@ueharazaidan.or.jp

Homepage: <http://www.ueharazaidan.or.jp>

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
「ソルト・サイエンス・シンポジウム2016」の開催について

1. 開催概要

- 1) 主 催
公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
(<http://www.saltscience.or.jp>)
- 2) 開催趣旨
塩に関する学術, その他の情報普及と啓発
- 3) 開催日時
平成28年10月12日(水) 13:00~16:40
- 4) 開催場所
品川区立総合区民会館(きゅりあん)
1階小ホール
- 5) 参加費 無 料
- 6) 申 込
ファックス・メール等で事前に申込
公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
シンポジウム係 宛
Fax: 03-3497-5712 Tel: 03-3497-5711
E-mail: saltscience@saltscience.or.jp

2. テーマと講演内容

- 1) テ ー マ 塩類と生活
- 2) 講演内容
 - (1) 亜熱帯・熱帯沿岸生態系と地球環境
(13:10~14:10)
- 塩の好きな植物マングローブが持つ力 -
講演者: 加藤 茂 (成蹊大学教授)
座 長: 上ノ山 周 (横浜国立大学大学院教授)
 - (2) 温度・痛みを感じる体のしくみ
(14:10~15:10)
- カルシウム・ナトリウム透過性チャネルの多彩な働き -
講演者: 富永真琴 (自然科学研究機構教授)
座 長: 菱田 明 (浜松医科大学名誉教授)
 - (3) リンゴの褐変を防ぐ食塩の効果とそのしくみ
(15:30~16:30)
- ハロゲン化物イオンによるポリフェノールオキシダーゼの活性阻害 -
講演者: 吉村悦郎 (放送大学教授)
座 長: 阿部啓子 (東京大学大学院特任教授)

編 集 後 記

第65巻4号(2016)掲載の総説3編, 原著論文3編, 資料3編をお届けします。

掲載した総説3編は, 子どもの座位行動減少のためには環境要因の改善が必要なことや青年期のメンタルヘルスの向上のためには身体活動が重要であること, 運動や咀嚼活動が食欲関連ホルモンの分泌や食事摂取量に影響することといった内容について報告されています。いずれも体力科学の分野の中において今後さらなる検討が必要である, 興味深い内容であると思います。次に原著3編は, 身体活動量の少ない日本人女子中学生は体脂肪率が高くなること, 痛みを誘発する部位におけるテーピング処置は痛みの知覚を緩和する効果があること, ドロップジャンプパフォーマンスの向上にはプレセット中の主働筋を支配する脳の選択的な脱抑制状態になることが重要であることといった内容について報告されています。また, 資料3編は, 中高齢者の動的な姿勢制御には体幹深部筋の増加だけでなく内臓脂肪の減少も重要であることや実施経験のない者が運動時の写真提示だけでは鍛え

る部位を正しく認識しないこと, 舌下温の日内変動特性と生活習慣および健康関連QOLに関連性が認められることといった内容について報告されています。体力科学の分野は多岐にわたりますが, 本号においては, 健康科学や臨床スポーツ科学, スポーツ科学などから基礎から応用までの研究内容が掲載されていると思います。いずれの研究においても各領域の科学を前進させる内容であり, ご一読して頂ければ幸いです。

最後に, 近年, 中高齢者に対する身体活動に対する重要性が着目される高齢化社会の中で, 本号の総説2編, 原著1編は, 子どもの身体活動量の増加や身体不活動の減少が身体とこころの健康にとって重要であることが報告されております。今後, 子どもから高齢者までの健康について我々, 体力科学からより多くの研究成果を発信する必要性を考えさせられる号でもあると思います。

家光素行

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.65, No.4

体 力 科 学 第 65 巻 第 4 号

平成 28 年 7 月 25 日 印 刷
平成 28 年 8 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

田 中 喜 代 次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas.or.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社